

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503379		
法人名	有限会社 はなふさ		
事業所名	グループホーム みはらし		
所在地	福山市蔵王町159-17		
自己評価作成日	平成23年8月26日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成23年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内が一望できる小高い場所にあり、見晴らしが良く清潔で穏やかな空気に包まれ利用者も落ち着いた暮らしができています。職員の利用者に対するきめ細かい思いやりと優しさが伝わる支援を目指している。利用者本位の行事を頻繁に取り入れ、職員共々リフレッシュできる事を目的とするサービス提供を実施している。又地域活動へも積極的に参加するよう努力している。ケアにおいては職員の育成に力を入れ、研修などの参加も奨励しサービスの質の向上を目指している。健康管理や急変時の対応については、かかりつけ医の定期的な往診と協力医療機関の連携により充実し利用者も家族も安心して過ごせるホーム(家)です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の高台にあり、眺望が素晴らしく自然環境の良い事業所である。利用者が地域で安心して暮らせるよう支援する事を掲げ、見守りを重視したケアを行っている。町内会に加入しており、地域の行事への参加やホームでの行事への参加呼び掛け・ボランティアの受け入れ等交流に努めている。利用者の自主性を重んじ、きめ細やかな対応を心掛け、花摘みやお茶会等一緒に経験しながら信頼関係を築いている。またみはらしの良い庭では散歩や日光浴・バーベキューなどの食事も行われており、憩いの場となっている。家族とともに日帰り旅行にも出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢者の方の自立の支援・年長者としての尊厳を守ります」という理念を掲げ、毎朝唱和しその理念や目標を日々感じ、行動している。	事業所独自の理念を踏まえ、利用者が地域で安心して暮らせるよう支援する事を掲げ、日々のケアの道しるべとして、共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行う行事(夏祭り・老人会など)に参加させてもらっている。	町内会に加入しており、地域の敬老会や他事業所の夏祭り等に参加している。また事業所の夏祭りに地域の方が参加され、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の見学などを通して現場の実情などを伝える機会を作り、サービスの課題に向け取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会に入会し、、2カ月に1回運営推進会議を実施する方向で努力はしているが、なかなか実行できていない。町内会長さんに率直な意見や助言をして戴く。	町内会長・民生委員・家族代表等が参加して開催しているが、具体的な意見交換の場には至っていない。	地域との協力体制を構築する意味においても、広く参加を呼び掛け、定期的開催し、信頼関係を築きながら、意見交換の場となるよう取り組まれる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して戴く方向からやっしていきたい。	相談事や困難事例等があれば、その都度、行政担当者に話を聴き、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	様々な対策や工夫を重ね、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアを行っている。また門の所にセンサーも取り付けしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加をし、資料をもとに勉強会を開いている。又事業所内での虐待のないよう職員どうしで注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の理解に努め、必要と考えられる利用者に活用できる用意はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、納得された上で手続きを始めて行く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。	訪問時等に本人・家族から意見・要望を傾聴している。また支払時や電話等でも話を聴き、記録して職員で共有し、検討して対応に当たっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時意見を聞き入れ、出来る範囲で改善している。	1～2ヶ月に1度のミーティングや申し送り時に意見や提案・要望を聴いている。その都度個別に話を聴く事もあり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全員が何らかの役割・責任を持たせる事を旨としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への積極的な参加。人としての資質の向上を図る。参考図書の配備。トレーニング。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催のフォーラム研修への参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には事前訪問し、本人の要望など傾聴・共感しながら受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には事前訪問、又は事業所見学をして戴き、家族の要望を受け止める努力をし、的確な説明と相談に対応できるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望を尊重し、出来る限りの対応に努め、他のサービスの調整をに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との共感をモットーに日々のケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	口頭や手紙で現状の様子を知らせ、家族との関わりを密に持てるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を受け止め、家族に相談しながら、出来るだけ関係が継続する様工夫している。	家族の協力のもと、昔馴染みの床屋やお墓参り等に出掛けている。また友人や近隣の方の訪問時には、状況に応じて関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格・認知レベル・状況を把握しながら利用者同士が関わり合い支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も何時でも相談に応じる。退居された後も連絡をとり様子を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望・意向を把握できる関わり方を心掛け思いを大切にしている。	利用者に寄り添ってゆっくり話を聴き、思いや意向の把握に努めている。一人ひとりのペースを大切に、表情や態度・行動から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの履歴を念頭に、本人や家族と共に日々の生活のなじみのある暮らし方が築けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりの言動を観察し把握しながら、その人ができる可能性を見極め活かせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を取り入れ介護計画を作成している。又職員間の話し合いを定期的に行い、意見やアイデアや反省点を出したりしてケアの在り方を再確認し、介護計画を作成している。	本人・家族の要望を聴くと共に、現状把握に努め、いろんな視点から情報収集を行い、職員で検討し介護計画を作成している。見直しは利用者ごとに行い、緊急時にはその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録(状況・状態・気付き)を記載し、経過・情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に、出来る限り必要な支援を対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性があれば依頼する体制は整えている。ボランティアには協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の要望や本人の希望があれば、かかりつけ医による継続的な医療を受けて頂いている。1か月に2回事業所の協力医の定期的な往診がある。	本人・家族が希望する主治医となっており、家族の協力のもと受診支援を行っている。協力医による2週間毎の往診や、看護師の協力のもと勉強会や夜間・緊急時の対応等もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回看護師を確保し、健康管理や医療的支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了解も得たうえで本人に関する情報提供を行い面会も行き、医療関係者とも連携を取り短期間での退院に繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族・かかりつけ医との話し合いで出来ること・出来ないことを判断した上でかかりつけ医等の協力を得ながら支援している。	利用時に方針について話をしている。また看取り経験もあり、状況に応じて本人・家族の要望を聴き医師と連携し、職員で情報を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。いつでも見える所にある。実際の場面で活かせるよう定期的に訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成している。年2回の消防訓練を行っている。町内会には協力を依頼している。	年2回避難訓練を行っているが、職員主体で地域住民や家族の参加には至っていない。	運営推進会議などで地域住民や家族等、広く参加を呼び掛け、地域との協力関係を築きながら、様々な想定のもと訓練が行われる事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守り言葉掛けや対応を行っている。又記録等は職員が管理している。	常に尊敬の念を持ち、プライバシーに配慮した言葉かけや誇りを傷つけないよう工夫をして対応に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた問いかけで本人の意見を聴き、思うように暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに配慮しながら、その人らしさを尊重することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は希望のある方は馴染みの店に行き、希望のない方はボランティアカットを利用されている。美容を好まれる方にはお化粧品・マニキュアを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら職員と共に買い物・準備・食事・片づけをしている。好みのお店へ外出し、食事を楽しんでもらっている。	利用者の状態に応じて、職員と共に食事の準備や後片付けを行い、季節の物や好みの物も取り入れて工夫し、一緒に食事をしている。また庭で食べる事もあり、楽しみなものになるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂取した水分量や食事の摂取量を記録して、体調を把握している。不足している時は様子観察して主治医と連絡を取り指示を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きの声掛けをし行ってもらっている。義歯の人は義歯を洗い、うがいをして清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ可能な限りトイレでの排泄に向けた支援をおこなっている。	利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導に努めている。タイミングやサイン等を読み取り、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にバナナやヨーグルト等を摂って頂き腸		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後入浴を基本としているが、夜間入浴も行っている。一人ひとりの体調に合わせて無理強いはせず、入浴を楽しめるように努めている。季節に応じて菖蒲湯などもしている。	基本的に午後入浴となっているが、要望により夜間も対応している。嫌がる方には言葉かけなどを工夫し個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調を把握し、個々にあった睡眠・休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の処方箋を全職員がすぐ見れる場所に置いて把握し、服薬管理を確実にしている。又薬に変更があった場合は状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ってもらい、散歩・行事・外出など気晴らしが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を聞き集団・個別の外出している。季節の行事としての花見や、秋の小旅行を行っている。又、数名ずつ職員と共にドライブに出掛け気分転換を図っている。	日頃から庭の散歩や日光浴をしている。要望により買い物やドライブにも出掛け、季節の行事としての花見や家族も参加しての日帰り旅行など支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として家族よりお金を預かっており、欲しい物や必要な物がある際は、職員が同行し買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族や知人に書いてもらったり、家族などに用事がある際は事業所の電話を利用してもらっている。携帯電話を使用している人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明る過ぎない照明・採光に留意している。季節の花・小物などを飾り、ソファ・テーブル・畳のある空間等設けている。	日当たりが良く清潔で、落ち着いた雰囲気の中、季節の花や小物で温かみのある飾り付けがなされている。畳があったり、さりげなく椅子が置かれていたり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・畳の部屋と、思い思いに過ごせるように設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使い慣れた生活用品や衣類・アルバム等持ち込んで頂いている。	洋間と畳のある部屋とがあり、使い慣れた調度品が置かれ、状況に応じて配置変えもを行い、心地よく過ごせるよう工夫された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の部屋には名前と花の絵を飾り、フロアには利用者が書いた習字や自作の絵が貼っている。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の回数が少なく報告、話し合いが十分ではない。	広く参加を呼びかけ、定期的を開催し信頼関係を築きながら意見交換の場とする。	定期的を開催し報告や話し合い、意見交換の場となるよう取り組む。	12カ月
2	35	災害対策において地域との協力体制ができていない。	運営推進会議などで地域の方や家族等参加を呼びかけ様々な想定訓練を行う。	年2回行っている防災避難訓練を地域の住民や家族の参加協力を促す。(回覧等を利用する)	12カ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。